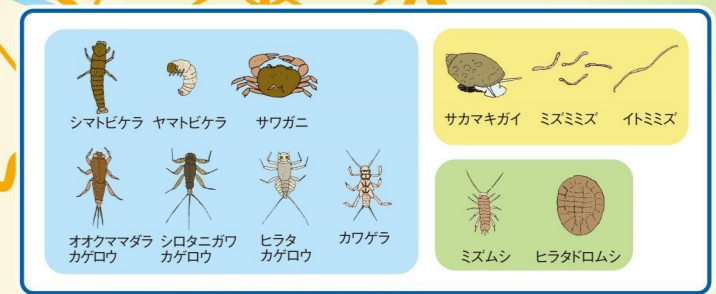


のぞいてみよう。

瀬野川の自然。

瀬野川には、多くの種類の生物を見ることが出来ます。鳥類ではコサギ、アオサギ等のサギ類が、全区間にわたって生息しています。特に、中流域の瀬や淵は生物の良好な生育環境を形成しており、魚類ではメダカ、昆虫類ではハグロトンボやゲンジボタルを見ることが出来ます。また、河口付近では、マハゼなどの汽水魚も見ることが出来ます。

現在では、中流域の寺橋から下流の高水敷が、川に親しみることができる河川公園として整備され、ウォーキングや花見、地域行事の場として利用されています。また、地域住民によるクリーンキャンペーンなどの川の環境保全活動も活発に展開され、学校では総合的学習において子ども達が川の中に入って体験学習を行っています。



マガモ 冬

北半球に広く分布し日本にも沢山渡ってくるカモの種類で冬鳥である。一部西日本で繁殖するものがあるが、ごく一部である。マガモを飼いならしてアヒルが作りだされたが、瀬野川ではアヒルと交雑し、見分けのつかないカモが生息している。主として淡水域に多い。

ダイサギ 通年

瀬野川で見られるシラサギはコサギとダイサギが多く、水面をじっと見て魚を捕って食べる。カチバシは黄色である。

カワセミ 通年

全国の池や川にすんでいる。通年見られるが特に春から夏にかけて川で見られる。スズメくらいの大きさでその羽の色は川の宝石といわれている。

ハクセキレイ 冬～春

顔は白く、目のところに黒い線がある。河原など開けた場所に生息しており、尾を上下に振りながら歩き、顔をさがしているところをよく見られる。

クサヨシ 初夏

河川を代表する植物で春から初夏にかけて開花する。地下茎によって群生し中洲や溜った泥や細かい砂の堆積したところに群生する。クサヨシはヨシやツルヨシの仲間では別種である。

オオマツヨイグサ 秋

北アメリカから来た帰化植物で花は夏の夕方咲く。高さは1～2mで、河原で良く見られる。(上流～下流域)

ミソソバ 秋

そばに似ているがそばにはありませぬ。日当たりの良い水田や河原に群生する。別名カエルグサ ユソソバイなど呼ばれているが葉の形が似ているからです。花もソバによく似ている。

シロツメグサ 春

ヨーロッパから来た外来種。一般的にはクローバーと呼ばれる。家畜の飼料に栽培されることが近年河原でもよく見られる。

ネムノキ 初夏

大きくなる木で、花は孔雀の冠のようである。夜になると花はほほむ。高さは6m～10mにもなる。(上流～中流域)

シダレヤナギ 通年

外来種で高さ10mにもおよぶ。枝が長くたれることからこの名がつく。核はしなやかで細工物に利用され、和風やがこなどに使われる。(上流～下流域)

ヒガンバナ 秋

別名マンジュシャゲ 秋の彼岸の頃に真っ赤な花が咲く。葉は花の頃は濃緑色となる。球根は毒があるがさして薬にすることができる。高さは30cm～50cm(下流域)

アカザ 夏

大きさは600mm～1500mm。葉の形は角状の卵型で、葉は波状であり、葉全体は白色の粉毛で覆われている。若芽は、食用に供される。(中流～下流域)

オランダガラシ 春～夏

ヨーロッパ産の帰化植物。若い葉や茎はサラダに供され、ピタパタなどの漬物としてもよく使われている。非常に繁殖力が強く川一面をよく覆われる。また、水の浄化にも働いている事はよく知られている。

ガマ (ガマ科) 夏

高さは2mくらい。果実にはやわらかい毛がついている。(ガマの穂といわれるもの) (上流～下流域)

アオサギ 通年

広島県最大の鳥である。留鳥で一年中見られる。羽の幅は約1mに達する。ぬれた羽を乾かす様は、滑稽である。

ヒドリガモ 冬

アヒルよりは小さいが、鼻筋が見え分けやすい。冬鳥で瀬野川では、晩秋から早春まで見られる。

カワウ 冬～春

世界に分布するが日本のカワウは独特の亜種である。冬から春にかけては川で魚をとっている。種家は川周辺の灌木でその翼は木を枯らすほどである。羽を広げ乾かす様は独特の生態である。

ミサゴ 冬～春

フシタカ科で全国に分布する南の地方は留鳥である。瀬野川のミサゴは最近飛来するようになった。トビより大きく羽根の裏側は白いだら模様である。

ツルヨシ 夏

川の中でこぶし大の蘆が散在する環境に密生し、川面を覆うように生え、水質を浄化している。地上に生える葉を刈り落す。似た種類にヨシやクサヨシスズキなどがある。

ヨシ 夏

別名マオ 茎の皮から繊維をとることができる。葉の裏は白く1～2cmに伸びる。クワ草に似ているが花のつき方が穂状花序である。

カラムシ (イラクサ科) 夏

別名マオ 茎の皮から繊維をとることができる。葉の裏は白く1～2cmに伸びる。クワ草に似ているが花のつき方が穂状花序である。

クス (マメ科) 秋

繁殖力が強く、瀬野川では川土手に群生して一面を覆いつくし、他の植物を寄せつけないほどである。根から取れるタンニン、くず餅やくず切りに利用されている。冬には枯れて茎が残っている。

カナムグラ (クワ科) 春～秋

つる草で、葉にトゲがありからまって伸びる。長さは数m以上になる。ヨシ帯の根元に一面に広がっている。(上流～下流域)

イヌビエ (イネ科) 秋

畑や道端、河原の雑草で、湿っぽい所では長いものが多い。高さは50cm～1mくらいで花茎が河原で良く見られる。(上流～下流域)

ヒメジオン (キク科) 秋

北アメリカから来た外来種。花は薄紫や白である。高さは50cm～1mくらいで花茎が河原で良く見られる。(上流～下流域)

ジュスタマ (イネ科) 秋

日の当たる川や沼の淵など湿地帯の近くに自生する多年草で、ハトムシと似ているが別種である。楕円形をした実にはジュズにして子どもの遊びに使われている。

オオイヌタデ (タデ科) 秋

高さ20cm～40cm。花の色はピンクである。川の中州などに密生している。(上流～中流域)

キクイモ (キクイモ科) 秋

北アメリカから来た草花で、地下茎は芋状になり食用に供される。高さは1.5m～2.5mになり土手に密生する。(上流～中流域)



シロタニカワカゲロウ 春～秋

体長は12mm前後。尾毛は3本あり頭部前方に4個の白い斑紋があり、成虫は春から初夏にかけて羽化する。(中流～下流域)

カワニナ 通年

マキガイの仲間が瀬野川には沢山生息している。オタルの幼虫の顔になる。よくタニシと間違われるが、タニシは丸い。(中流～下流域)

アユ 夏

香魚と呼ばれ夏から秋の釣りの盛んな魚である。夏には産卵期が近づき、産卵後には産卵場を離れて川を遡る。天然のアユは見られなくなっている。(中流域)

ドコ 夏～初冬

体はスングリ黒褐色で不規則な雲状斑がある。動物食で小魚を捕り河川の淵などに生息する夜行性のスズキ目の魚である。(中流～下流域)

オイカワ 通年

関東以西の西日本に分布するコイ科の淡水魚である。夏には産卵期が近づき、産卵後には産卵場を離れて川を遡る。天然のオイカワは見られなくなっている。(中流～下流域)

メダカ 春

特に下流域の止水で見られる。体長は30～35mmで群れを成して泳ぐ。カタヤシと間違われるが、尾の形が丸いのがカタヤシである。(中流～下流域)

スミウキゴリ 夏

ハゼ科の魚で、体長は70mmくらいで汽水域に住み下流域の淵やよどみに生息する。水生昆虫や小魚をえさとしている。珍しい魚の一種である。(下流域)

マハゼ 春～秋

体は扁平で石にしがみついていて、大きさは15～20mmである。国内では26種生息し、瀬野川では5種産する。(下流域)

サワガニ 通年

純淡水産のカニはこの種のみである。幼生期は川の体内で過ごし、稚ガニは親の腹にしがみついて生活する。(山地溪流)

モクスガニ 夏

甲幅は60mm～100mmで川に生息し産卵のため海に下る。ツメに毛が沢山生えているのが特徴である。(上流～下流域)

アシハラガニ 通年

甲幅は40mm程度で、瀬野川では海田町の商店街右岸の草のあるところや釣場川などで見られる。アシなどの茂っている所を特に好んで生息する。(下流域)

チゴカニ 通年

甲幅は10mmくらいで小さなカニで、目は長くハサミは白く、両ツメをいっしょに広げて体振する種から体振カニの異名を持つ。(下流域)

ミナミヌマエビ 通年

体長20mm～30mmで体色は黒っぽい。瀬野川のヌマエビはミナミヌマエビで頭部先端と第二触角の長さが同一である。(上流～下流域)

アナジャコ 通年

体長は100mmほどで干潟にY字がたの穴を作って生息する。穴の深さは1m以上にもなる。ヤドカリに近い仲間でも釣りのえさとして使われる。(下流域)